公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2016年5月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・1
（二子山夕暮れ探鳥会）
◆もしも、あなたの探鳥地で開発計画が持ち上がったら・・・・・・・・・・・・・・・・3
「日ごろからできる情報収集」
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・4
（2016年3月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・6
・第 2 回探鳥会リーダーズフォーラム報告書（概要版）
・2016年度「探鳥会リーダーズフォーラム」予告
・2016年度「会員を増やすための探鳥会」について
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・11
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・12
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・12

◆探鳥会訪問記（二子山夕暮れ探鳥会）

二子山夕暮れ探鳥会（神奈川支部）

日時：2016年4月23日（土）
　　16時15分～20時30分
天候：曇り
参加人数：30人（男性15名、女性15名）
リーダー：男性2名
コース：川久保バス停→住宅街→大山林道（森戸川林道）→林道終点（二子山山頂手前）から折り返し→川久保バス停付近解散

■探鳥会の概要

二子山山系は神奈川県東部三浦半島の付け根部分に位置する、丘陵地帯のことを指します。ほぼ中央にある207.8メートルの二子山は大楠山（242m）に次いで三浦半島第2の高さを誇る山です。

いくつかの登山道があり、今回は川久保バス停から森戸川に沿って大山林道（森戸川林道）の終点までを往復するコースを歩きました。

■探鳥会の様子と観察した鳥

集合は夕方16時15分に川久保バス停。近所からの参加者の方もいらっしゃいましたが、多くの参加者はバスを利用しての集合でした。

30名の参加者が受付を済ませると、リーダーからは、「日が暮れるまではオオルリやキビタキなどの夏鳥を期待し、日没後は本日メインのミゾゴイやフクロウの声を楽しむ予定」との案内がありました。

「声を楽しむ探鳥会なので、おしゃべりは控えめに」「暗くなってからは足元に気を付けて」との注意事項があり、16時半には出発。

15分ほどは入り組んだ住宅地の中を歩きます。二子山での探鳥会を始めたころはそのあたり一帯は畑や田んぼだったそうです。

いよいよ林道の入り口にさしかかったところで、オオルリの歌声が響きます。住宅街の向こう側の山の斜面にいるようですが肉眼ではわかりにくいため、望遠鏡で観察しました。その間に上空をノスリが悠々と飛んでいきました。

林道に入り、少しずつ日が落ちていく中、オオルリとウグイス、ヤブサメの声を聴きながら歩いていましたが、18時を境に声が聞こえなくなり、しばらくは沈黙が続きました。

途中休憩をはさみつつ林道を登り、18時半ごろ、本日主役のミゾゴイ（の声）を待ちます。

例年確認されている場所だそうですが、生き物に「絶対」ありません。そこで、リーダーは別の場所で撮影されたミゾゴイの動画を準備してきており、みんなで動画を見ました。

19 時前、遠くからミゾゴイの声が響きます。参加者同士でおしゃべりしていた声がぴたりと止まり

「ボゥーボゥー」

と暗闇に響く声を全員が確認できました。これでリーダーもひと安心。暫く耳を傾けていましたが、鳴きやんだのを機に折り返しました。

森の中は思いのほか明るく、足元さえ危なくなければライトが無くとも歩けます。但し、慣れてない人は横を流れる沢への転落の危険があるため、ライトを点けることをお勧めしていました。

その後、再び鳴き始めたヤブサメや遠くで鳴いているフクロウ、クチキコオロギの声など、意外にも賑やかな夜の森は、目に頼れない分、耳をフル活用しての探鳥会でいつもにも増して、神経が研ぎ澄まされる不思議な感覚でした。

帰り道、林道を抜けて住宅街を通る途中、かなり近くでフクロウの声が響き、参加者は

「この辺に住んでいる人はいつもこんなに近くでフクロウの声が聞けるなんてうらやましい！！」

と環境の良さに感動されていました。

最後に街灯の下で鳥合わせをし、解散となりました。

■参加者の声

70 代女性：いつも色んなところの探鳥会に参加していますが「そういえば夜遊びは初めてだわ！」と思って参加しました。

小学生男の子とお母さん：「探鳥会」は初めてです。息子が生き物を好きなので参加してみました。双眼鏡は借り物です。

40 代男性：子供のころ、カブスカウトに参加していて、自然の中で遊んでいたので、元々自然は好きなんです。大人になってあまり行かなくなったので、最近は近郊の探鳥会へ参加してみています。夜の探鳥会は初めてです。

▲夕暮れ迫る中、ライトとミゾゴイの動画を準備中

観察できた鳥は、トビ、ツバメ、カルガモ、ハクセキレイ、オオルリ、ウグイス、メジロ、アオゲラ、ホオジロ、ミゾゴイ、フクロウ、ノスリ、ウミネコ、ヤブサメ、センダイムシクイ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、コゲラ、キジバト、ハシブトガラス、ハシボソガラスの 23 種とコジュケイ、ガビチョウでした。

■まとめ

この探鳥会は去年より始めたとの事でしたが、今年は 30 名と去年よりも大分多くの方が参加されていたようです。リーダーの方も「やはり神秘の鳥ミゾゴイの効果ですかね」とおっしゃっていました。概ね神奈川県内からの参加者でしたが、「夕暮れ探鳥会」という企画そのものへの興味が伺えたように思えます。

開始時は明るいものの、途中からは夜になるので、帰りの最後尾は必ずリーダーが務めるなど、特にリーダーは通常の探鳥会よりも気を使うのではないかと思いました。

目に頼らない探鳥会とはいえ、パソコンで動画が見られるようにと「目で楽しむ」場面も準備されていたのことに感心させられました。

なるべく静かである事、近隣の住民に迷惑がかからない事など、注意点はあるものの、夕暮れからでも「探鳥会」を耳で楽しめることを体感できる「夕暮れ探鳥会」は魅力ある企画だと感じました。

（普及室／植木陽子）

◆もしも、あなたの探鳥地で開発計画が持ち上がったら

毎月行われる定例探鳥会は、何度も繰り返し参加していると、フィールドへの愛着がつのってきます。ところがある日、いつも探鳥会を行っている場所に突然工事のお知らせの看板が立っていたとしたら・・・。そんなことが起こったらどうすればよいのでしょうか。そんなケースが実際にブロック会議等で報告されることがありますが、事前に備えておくことが出来れば、突然のことに対しても何とか対応出来たのにという声も聞かれます。

そこで、今月から３回で自然保護室室長の葉山に、「もしも、あなたの探鳥地で開発計画が持ち上がったら」というテーマで寄稿してもらいました。

第１回「日ごろからできる情報収集」

■土地所有者、管理者は誰なのかを調べておく

その場所の土地所有者が誰なのか。少なくとも、私有地なのか公有地であるのかは知っておきましょう。さらに、河川や道路、公園などの場合はその管理者が国なのか、都道府県なのか、市町村なのかも知っておくことが必要です。

１）公有地の場合

探鳥会が行われている場所は、市民が自由に立ち入れる場所、ほとんどの場合、公有地です。その場合、開発行為のほとんどは、いわゆる公共工事にあたるものです。公共工事は税金を使って行われるため説明責任を問われることから、現在ではその多くは計画段階からの市民の参加が曲がりなりにも保証されています。もし、探鳥地の隣接地にお住いであれば、住民説明会を通して計画を知ることができますが、そういう例は稀でしょう。そうした場合、積極的な情報収集が必要です。例えば、河川整備や道路計画などは、計画段階で公開の審議会や検討会があります。しかし自治体によっては、担当課のホームページ等にそっと掲載したり、広報誌に小さく載せたりしているだけの場合もあります。こまめに開発計画の有無をチェックしておくことが大切です。

さらにその場所に、どのような法的な担保があるのかなどの情報を整理しておくことも大切です。例えば**鳥獣保護区**なのか、**自然公園**なのか、**自然環境保全地域**なのか、**保安林の指定**があるか。都市であれば**都市緑地法の緑地保全地域**になっているかなどです。また、地域によっては**景観条例**などの条例の対象地域になっている場合もありますので、事前に情報を整理しておきましょう。自分のフィールドの近くでは開発計画がないと思っていても、実は河川や道路のように、計画が広域にわたる場合は気づいていないだけで、すでに何十年も前に開発計画が立てられているというケースがあります。こうした場合、事前に大きな河川や道路の計画に当たっておくことが必要です。

２）私有地の場合

私有地で探鳥会が行われている場合、例えば社寺林であったり、農地であったりする場合が考えられます。その場合現状として、土地所有者には探鳥の場所としてその土地への立ち入りに理解いただいているわけですので、土地所有者と友好な関係を築いておくことが必要です。日本の場合土地所有者の権利は強く、所有者が開発をしたいという場合、その行為そのものが法的に規制されていなければ、止める方法はないのが現状と思います。

■その場所の大切さを日頃から市民に伝える

公有地であっても、私有地であっても、一般参加の探鳥会を通して、その場所の魅力を市民に日頃から知ってもらうことも大切です。また、探鳥会の広報をその土地の管理者の協力を得て行うことも有効です。多くの市民に知ってもらっておけば、開発計画が持ち上がった際に、土地の管理者や事業の担当部署から事前に相談がある可能性もあります。また、市民からあのようにいい場所を壊すのはもったいないとの支援を得ることもできます。

■探鳥会での記録や調査の結果などをまとめておく

その場の大切さを伝えるにあたって、探鳥会の記録や調査の結果などをまとめておくことも大切です。こうした科学的なデータは、その場の大切さを客観的に伝える基礎資料になりますし、アセスなどの不備を指摘する場合の根拠にもなります。

（自然保護室／葉山政治）

◆探鳥会保険集計結果（2016 年 3 月分）

3 月は 64 支部からご報告をいただき、計 269 回の探鳥会が開催され、のべ 6,507 人が参加されました。

表 1. 3 月の探鳥会保険集計結果（2016 年 4 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	33	5	1	39
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	9	2	1	12
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	3	78	31	7	116
小樽支部	2	8	5	2	15
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	15	2	3	20
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	1	9	3	3	15
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	3	45	3	4	52
秋田県支部	3	34	2	3	39
山形県支部	4	23	46	7	76
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	20	8	5	33
北上支部	−	−	−	−	−
宮城県支部	3	37	17	6	60
ふくしま	2	42	0	4	46
郡山支部	3	34	0	8	42
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	1	2	0	7	9
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	18	1	1	20
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	13	121	61	22	204
栃木	−	−	−	−	−
群馬	3	38	16	15	69
吾妻	1	17	0	1	18
埼玉	16	356	94	94	544
千葉県	10	151	20	39	210
東京	13	433	10	70	513
奥多摩支部	16	205	48	49	302
神奈川支部	16	237	39	55	331
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	41	16	2	59
石川	2	42	15	5	62
福井県	1	7	0	1	8
長野支部	2	33	12	4	49
軽井沢支部	1	13	5	1	19
諏訪支部	-	-	-	-	-
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	30	4	4	38
富士山麓支部	1	3	14	5	22
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	12	4	2	18
南富士支部	2	51	10	3	64
南伊豆	1	5	1	2	8
静岡支部	3	26	0	9	35
遠江	3	67	16	11	94
愛知県支部	14	181	157	37	375
岐阜	-	-	-	-	-
三重	5	71	22	9	102
奈良支部	5	115	13	10	138
和歌山県支部	1	4	5	2	11
滋賀	4	30	35	8	73
京都支部	9	142	39	21	202
大阪支部	23	474	114	96	684
ひょうご	4	80	97	11	188
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	29	11	3	43
島根県支部	2	18	16	2	36
岡山県支部	6	113	54	19	186
広島県支部	6	77	66	26	169
山口県支部	4	22	10	4	36
香川県支部	2	81	19	2	102
徳島県支部	5	62	15	5	82
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	5	56	32	9	97
北九州	4	53	9	4	66
福岡支部	7	123	33	16	172
筑豊支部	1	9	2	1	12
筑後支部	4	46	11	4	61
佐賀県支部	3	47	20	5	72
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	6	83	31	8	122
大分県支部	2	28	25	3	56
宮崎県支部	2	28	28	2	58
鹿児島	3	61	31	11	103
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	269	4,328	1,405	774	6,507

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■第２回探鳥会リーダーズフォーラム報告書（概要版）■

今年の１月に開催された「第２回探鳥会リーダーズフォーラム」の報告書が完成しました。報告書は概要版と詳細版があります。紙面の関係で今回は「概要版」の方を掲載します。

「詳細版」をご希望の方は、以下の連絡先までメールをください。折り返し報告書（pdf 版）を送付いたします。

【お申込み】tancho-staff@wbsj.org まで（件名に「報告書希望」と明記してください。）

概　要

＜時　期＞2016 年１月 30 日（土）13:00
～31 日（日）12:00
＜会　場＞八王子セミナーハウス
（東京都八王子市）
＜対　象＞　支部、連携団体の探鳥会リーダー
＜参加者＞　支部、連携団体リーダー38 名、
財団スタッフ 13 名
＜参加費＞　10,000 円（1 泊２日）
＜プログラム＞
１月 30 日 13:00　受付
13:30　オリエンテーション
アイスブレイキング
15:00　※ワールドカフェ
「探鳥会について話そう」
16:30　分科会 A
18:30　チェックイン
19:00　夕食、懇親会
１月 31 日 8:00　朝食
9:30　分科会 B
11:00　まとめ
12:00　終了

※ワールドカフェ
大人数で行う会議手法。全体を８グループに分け、「探鳥会の常連を育てるには」という共通テーマで 20 分間話し合った。その後ホスト役１名を残し、他のメンバーは分散し再構成されたグループで同テーマについて話し合った。これを３回繰り返し、探鳥会に対する認識を共有した。

▲ワールドカフェの様子

分科会報告

≪分科会 A（１月 30 日）≫

（１）「女性パワーが探鳥会の雰囲気を変える」
【日　時】2016 年１月 30 日 16:00～18:00
【担　当】川崎康弘氏（オホーツク支部）
【参加者】21 名
【内　容】
全国で会員が減少する中、唯一会員を増やしているオホーツク支部。その秘密は女性が活躍できる探鳥会運営にあった。支部の探鳥会はすべて新聞で広報し、初参加の方を意識して大切に迎えている。そのため、常連の参加者に対しても初心者をみんなで迎え入れる雰囲気づくりに協力してもらっている。特に女性の存在は重要で、探鳥会のムードを明るくオープンなものにするためには不可欠。いかに女性が活躍できる探鳥会を作るかが大きなポイントだとのこと。そのことは、支部の会員の６割が女性だという事実に如実に表れている。

（２）「若者向け探鳥会ネットワークを作ろう」
【日　時】2016 年１月 30 日 16:00～18:00
【担　当】石亀明氏（東京）
【参加者】10 名
【内　容】
昨年のフォーラムでも「若者向け探鳥会」をテーマにした分科会が行われた。それ以後、埼玉、奈良、岡山、京都、など各地で「若者向け探鳥会」が新たに開催される動きが広まっている。今回は、東京、埼玉、栃木、大阪、奈良、岡山の６地域のヤング探鳥会担当者が集まり、それぞれの若者向け探鳥会の事例報告を行った。同じヤング探鳥会でも地域によって微妙に経緯や雰囲気が異なっているのが面白い。そうした多様性も含めてヤング探鳥会の意義や効果を情報発信して、さらにこの動きが広まっていくことを期待する。

（3）「リーダー研修を考える」
【日　時】2016年1月30日16:00～18:00
【担　当】手塚功氏（栃木）
【参加者】13名
【内　容】
以前からリーダー研修会の必要性はいろいろと指摘されてきたが、いざゼロから自分で研修会を企画しようとすると何から手を付けてよいかわからない。そこで、埼玉と栃木の事例紹介を受け、今どのような研修会が求められているのか、研修会を継続することの意義と効果などについて意見交換を行った。実施方法についてはブロックの単位での開催を検討してもいいのではないかという意見がある一方で、支部としての求心力を取り戻すためにまずは支部単位での取り組みを行っていきたいという両方の意見があった。財団でも引き続き各支部の研修会の事例の収集と講師派遣等の協力を行っていく。

≪分科会B（1月31日）≫

（4）「ツバメのねぐら入り観察会のすすめ」
【日　時】2016年1月31日8:45～10:45
【担　当】堀本理華氏（財団普及室）
【参加者】8名
【内　容】
財団では昨年度からツバメのねぐら入り観察会の開催を各支部に呼び掛けている。この分科会では、ツバメのねぐら入り観察会に取り組んできた先進支部からツバメのねぐら入り観察会の実施事例を紹介していただき、観察会の魅力や実施のポイントなどを発信し、さらに多くの支部にも実施していただけるようにと企画された。ねぐら入り観察会は、無事にねぐら入りを見せることができれば参加者の満足度は高くなるが、まれに空振りに終わることもあり、そうしたときは場を取り繕うのが大変難しい。分科会では、ねぐら入り観察会の魅力と同時に運営の難しさについても意見交換が行われた。

（5）「見せます！やります！
探鳥会の工夫100連発！」
【日　時】2016年1月31日8:45～10:15
【担　当】吉沢雅宏氏（栃木）
【参加者】22名
【内　容】
全国各地で行われている探鳥会では、探鳥会を効果的に進めるための工夫やアイディアが数多く実践されている。この分科会は、その工夫やアイディアをそれぞれもちよって、探鳥会をよりよいものしていこうという趣旨で企画された。はじめは、「集まらなかったらどうしよう」と担当者は心配していたが、ふたを開けて見ると次から次へと参加者から手が上がり、分科会の時間内に全部で22通りの工夫が集まった。具体的な工夫内容は詳細版報告書の中で紹介する。

（6）「観るから保全へ～ヨシ原の保全活動～」
【日　時】2016年1月31日8:45～10:15
【担　当】滝島克久氏（奥多摩支部）
【参加者】8名
【内　容】
各地の支部では探鳥会を活動の軸にしているところが多いが、近年里山管理や草地管理などの「保全作業」に取り組むところが増えている。そもそも鳥を見ることで気づきを得て、その生息地を保全する活動に広がっていくことはごく自然な流れなのかもしれない。この分科会では、奥多摩支部の多摩川河川敷の保全活動の事例を紹介し、支部が保全活動取り組む可能性について考えようという趣旨で企画された。

（普及室／箱田敦只）

■2016 年度「探鳥会リーダーズフォーラム」予告■

今年度も以下の通り探鳥会リーダーズフォーラムを計画しております。今年度は、西日本、東日本で 1 回ずつ開催の予定です。来月以降に告知を開始する予定ですのでもうしばらくお待ちください。

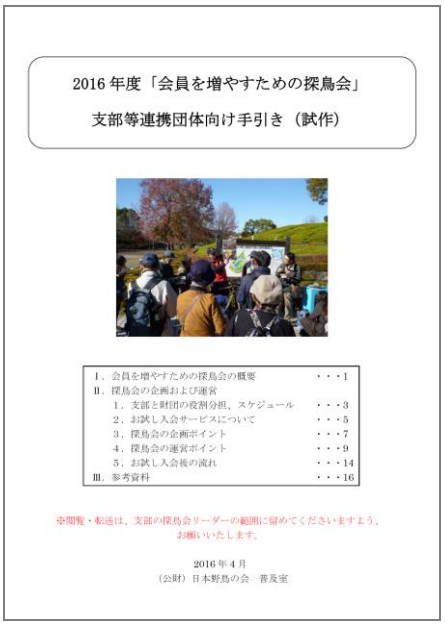
＜名　称＞　探鳥会リーダーズフォーラム in 西日本
＜日　時＞　2016 年 10 月 29 日（土）13 時～30 日（日）12 時
＜会　場＞　六甲山 YMCA（兵庫県神戸市）（http://www.osakaymca.jp/rokko/）
＜主　催＞　（公財）日本野鳥の会　普及室
＜定　員＞　50 名
＜参加費＞　1 万円程度を予定

＜名　称＞　探鳥会リーダーズフォーラム in 東日本
＜日　時＞　2017 年 1 月 28 日（土）13 時～29（日）12 時
＜会　場＞　八王子セミナーハウス（東京都八王子市）（https://iush.jp/）
＜主　催＞　（公財）日本野鳥の会　普及室
＜定　員＞　50 名
＜参加費＞　1 万円程度を予定

■2016 年度「会員を増やすための探鳥会」について■

昨年度、関東ブロックと近畿ブロック所属の 12 支部と「会員を増やすための探鳥会」を開催しました。2016 年度は、さらに開催規模を広げて、希望される全国の支部の皆さんと一緒に開催したいと思っております。

5 月初めに支部の事務局宛に、会員を増やすための探鳥会の手引きとともに、案内をお送りいたしました。支部内でご検討いただき、6 月 26 日（日）までに、「参加」または「不参加」のご連絡を tancho-staff@wbsj.org までお知らせいただけますと幸いです。なお、手引きを基本とした研修プログラムもご用意しておりますので、まずは、研修会の導入を検討いただくことをおすすめしています。


2016 年度「会員を増やすための探鳥会」
支部等連携団体向け手引き（試作）

Ⅰ．会員を増やすための探鳥会の概要　・・・1
Ⅱ．探鳥会の企画および運営
　1．支部と財団の役割分担、スケジュール　・・・3
　2．お試し入会サービスについて　・・・5
　3．探鳥会の企画ポイント　・・・7
　4．探鳥会の運営ポイント　・・・9
　5．お試し入会後の流れ　・・・14
Ⅲ．参考資料　・・・16

※閲覧・転送は、支部の探鳥会リーダーの範囲に留めてくださいますよう、お願いいたします。

2016 年 4 月
（公財）日本野鳥の会　普及室

▲手引き、表紙

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇お詫びと訂正

1982 年に初版が発行された『フィールドガイド日本の野鳥』は、当会理事でもあった故高野伸二の遺作であり、編集、増補、改訂の歴史から当会の財産とも言えます。2007 年、増補改訂版でフィールドマナーや当会の歴史も書き足しました。日本鳥学会による日本鳥類目録の改訂に沿わせた増補改訂新版でも、多くの方々にさまざまなご協力をいただきながら、会員や支部の皆様が使えることはもちろん、誇れるもの、お勧めいただけるものにしたいと取り組んできました。また、支部活動に関わる方々に向けたこの連載では、恥を忍んで新版編纂の裏話しも含め、実情を知っていただくように努めてきたつもりです。

この連載の中で、当会が発行する図鑑は版を重ねる度に時代に応じた微修正を施していること、新版でも、すでに２刷を発行する段階での修正箇所を検討していることを紹介してきましたが、この度、２刷を待たずに、新版における地名と分布図の間違いをお詫びして、訂正させていただくことになってしまいました。

地名については、コシジロイソヒヨドリの観察地が静岡県周知部となっていますが、周知部ではなく「周智郡」でした。新版では P242 ですが、初版から増補版までは「周知郡」、増補改訂版では「周知部」と記されてきた箇所です。分布図についてはサバンナシトドの色と範囲です。新版 P278 の分布図でアラスカから極東にかけて褐色の着色（ほぼ周年生息することを示す）がありますが、色は桃色（繁殖地を示す）とすべきで、アラスカは全域、極東の範囲は東端のチュコト半島のみでした。これらはお知らせできる方にはお伝えし、当会ホームページでは正誤表を掲載、以後の販売においては正誤表を挟み込むことを考えていますが、まずもって協力いただいた方々、購入された皆様に深く、お詫び申し上げます。

◇目録７版の訂正に沿うべきか？

新版２刷で修正を検討している例では、ミズカキチドリの識別点の示し方についてすでに紹介しました(2015 年９月号)が、日本鳥類目改訂第７版も 2012 年発行後に、多々訂正されており、いつ、どの段階で、それらに対応すべきか？は、悩ましいところです。目録７版の正誤表は、日本鳥学会のホームページで公開されていますが、2013 年に続き、2015 年にも訂正され、現在、209 箇所に及んでいます。この機会に、英名と亜種の事例を書いておきましょう。

目録 7 版での英名の訂正はハリオアマツバメ、ミズカキチドリ、キアシセグロカモメ、ミサゴ、ハチクマ、ワシミミズク、ミユビゲラ、ミソサザイ、ノビタキ、ヒメイソヒヨでされています。新版では目録７版に沿ってミソサザイは Eurasian Wren、ノビタキは African Stonechat としましたが、現在示されている正誤表に従うならそれぞれを、Winter Wren、Stonechat としなくてはなりません。ただ、英名は図鑑によってさまざまな表記が見受けられるのが実情ですから、ただちに学会ホームページの正誤表に沿わすほど緊急性、重要性は高くなく、新版２刷の際でよいのではないか？と今のところは考えています。

亜種についてはオオメダイチドリで、正誤表によると「亜種不明」を追加することになっています。『フィールドガイド日本の野鳥』は、増補改訂版から日本で複数の亜種が記録されている種は、本文の種名の横に亜種マークを記して示すことにしました。新版では亜種不明でも１亜種とみなして、亜種の記録が複数であればキアシセグロカモメのように亜種マークを記しました。それに倣うなら、オオメダイチドリの種名の横に亜種マークを記して、鳥類リストには亜種不明を追記しなくてはなりません。はっきりしていないことが多い亜種には触れないほうがよいという考え方もありますが、目録７版の考え方（今後の研究を促す意味で、亜種不明や亜種の要検討まで記載した）を尊重してきた新版では、追って正誤表に従った修正を施したほうがよいとは考えています。

◇ご指摘に感謝します

目録 7 版で種が細分化されたシジュウカラやメボソムシクイなどは、それに沿って新版で分布図を修正したことは紹介済みですし、ミコアイサ、カンムリカイツブリ、サンカンノゴイの繁殖地や島嶼部の分布など、虫眼鏡を用いないと見えないような細部まで見直してきたつもりです。それでも、新版発行後、分布図について複数のご指摘をいただいており、対応を検討しています。

２刷で分布図の修正を検討している例として、コノハズクのヨーロッパ側、ツツドリの中国南部の分布域があります。これらも近年は種が細

分化されるようになってきたので、それぞれ別種とされた分布域は削除したほうがよいとのご指摘があり、その通りと思います。

どうしてそうなってしまったのか？調査中なので、まだ書かないでおこうと思っていた裏話しも、この機会に書いてしまいましょう。新版では、イスカの分布図を修正しました。繁殖地も越冬地も年によって違うことがままあるイスカは分布図で表しにくいのですが、増補改訂版の分布図では、大陸の周年いる地域より南に繁殖地があるように着色されています。もともと不安定な分布ですから、さまざまな記録や文献を組み合わせるとそんな分布図ができてしまう可能性もあるし、韓国の図鑑など、それを真似たものも見られます。が、より北で冬に見られた種が、より南で繁殖することは普通ではないでしょう。

そんなこともあったので、昨年、新版が発行された後も、どこかに間違いがあるのではないか？と、多くの方々にチェックをお願いし、自らも日々見返しながら毎日怯えて過ごしてきました・・・にもかかわらず、ああ、それなのに・・・サバンナシトドの分布図のような間違いが見落とされてきたわけですから、恥ずかしい、情けない、悔しい、申し訳ない気持ちで一杯です。

特に、日本野鳥の会埼玉におかれましては、野鳥記録委員会が新版の分布図を参考に支部報（３月号）に記事まで書かれており、先にお詫びはしたものの、改めて、深くお詫び申し上げる次第です。

せめてもの救いは、間違いが発覚した発端は会員によるご指摘だったことです。さまざまなご指摘にこの場を借りて感謝致しますとともに、やはり『フィールドガイド日本の野鳥』は当会の財産、皆様によって育てられている図鑑なのだと思います。

（普及室／安西英明）

▲今回は、新版で谷口高司さんに追加していただいた画像から、ウスベニタヒバリ（冬羽）です。本種の分布は文献によって違うので、分布図では悩んだ末に比較的新しい韓国の図鑑を参考にしました。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信５月号の電子メール版の購読者数は、先月から７名増えて 828 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表 2. 探鳥会スタッフ通信５月号電子メール版の購読者数（2016 年５月 16 日現在）

支部	購読者数		支部	購読者数
小清水	1		福井県	10
オホーツク支部	6		長野支部	2
根室支部	0		軽井沢支部	2
釧路支部	2		諏訪支部	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70		木曽支部	1
旭川支部	4		伊那谷支部	1
滝川支部	1		甲府支部	3
道北支部	1		富士山麓支部	0
江別支部	0		東富士	0
札幌支部	4		沼津支部	3
小樽支部	3		南富士支部	2
苫小牧支部	2		南伊豆	2
室蘭支部	5		静岡支部	3
函館支部	0		遠江	12
道南桧山	2		愛知県支部	33
青森県支部	1		岐阜	5
弘前支部	4		三重	19
秋田県支部	3		奈良支部	3
山形県支部	5		和歌山県支部	5
宮古支部	1		滋賀	19
もりおか	3		京都支部	31
北上支部	2		大阪支部	26
宮城県支部	39		ひょうご	15
ふくしま	3		NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1		島根県支部	2
二本松	1		岡山県支部	23
白河支部	2		広島県支部	8
会津支部	2		山口県支部	4
奥会津連合	0		香川県支部	6
いわき支部	1		徳島県支部	6
福島県相双支部	0		高知支部	1
南相馬	0		愛媛	14
茨城県	21		北九州	12
栃木	45		福岡支部	11
群馬	25		筑豊支部	19
吾妻	1		筑後支部	6
埼玉	37		佐賀県支部	5
千葉県	18		長崎県支部	1
東京	55		熊本県支部	14
奥多摩支部	47		大分県支部	3
神奈川支部	20		宮崎県支部	3
新潟県	1		鹿児島	3
佐渡支部	1		やんばる支部	0
富山	3		石垣島支部	1
石川	29		西表支部	2
			合計	828

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）
ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。
配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

風薫る気持ちのいい季節になってきました。
全国一斉探鳥会をはじめ、バードウィーク中に開催された探鳥会はいかがでしたでしょうか？さぞ、賑わったことと思います。開催された皆さま、お疲れ様でした。
今年度の新小冊子「おさんぽ鳥図鑑」も沢山のお申込みを頂き、大好評です。今回、事務局宛てに「おさんぽ鳥図鑑プレゼントハガキ」の見本を数部お送りしております。是非、活用をご検討下さい。

先日は夜遅めの時間にアオバズクが至近距離でずっと鳴いていましたし、その次の日は早朝のホトトギスの声で起こされました。
葉が茂ってくるとやや鳥の姿は見にくくなってしまいますが、気持ちのいい気候の中、鳥の声が楽しみな季節です。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第38号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2016年5月18日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org